

The top section of the slide features a collage of three images: on the left, a group of people's hands holding glasses of beer around a table with food; in the center, a white surface with several yellow capsules and green leaves; on the right, a person in a lab coat and blue gloves using a pipette to transfer liquid into test tubes. The KIRIN logo is centered at the top of the collage.

KIRIN

よろこびがつなぐ世界へ
Joy brings us together

キリングループ[°] 2024年度12月期 第1四半期決算

2024年5月9日

- キリンホールディングスの高岡です。よろしくお願いいたします。
- それでは早速、第1四半期決算についてご説明いたします。まず、2ページをご覧ください。

各事業でブランド投資や研究開発投資を行うも、事業利益は前年並みで推移

(億円)	24年1Q実績	23年1Q実績	増減	%
売上収益	5,018	4,503	514	11.4%
事業利益 *	331	336	-5	-1.5%
税引前四半期利益	442	201	241	120.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	259	56	203	363.3%

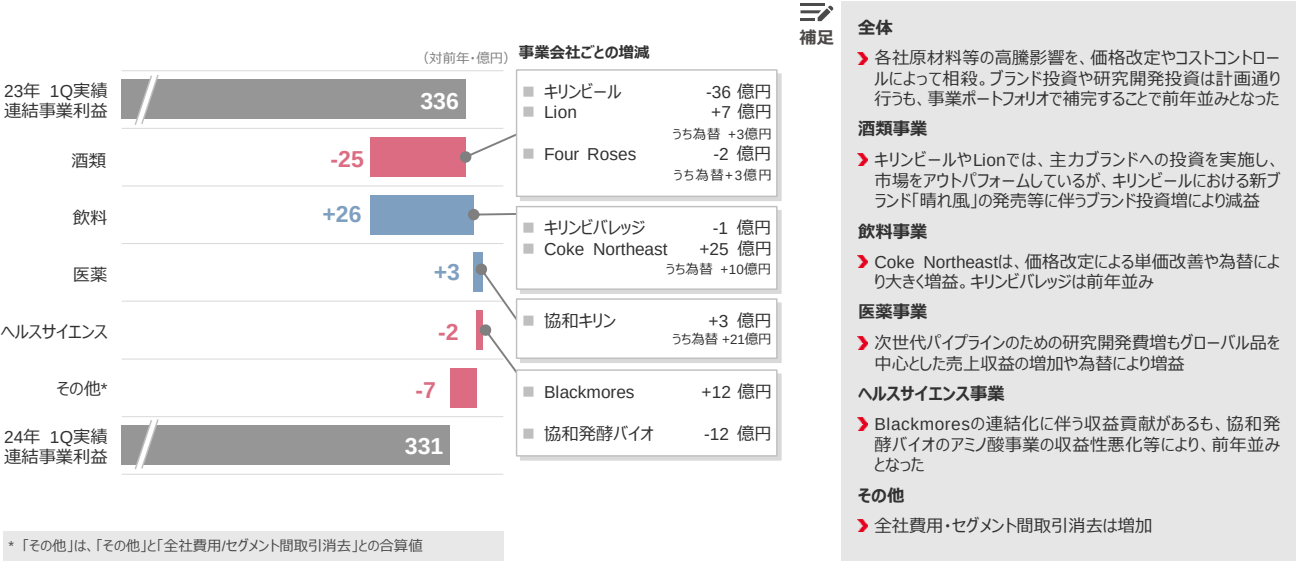
定量実績	24年1Q実績	23年1Q実績	増減	%
平準化EPS **	32	32	—	—

- 第一四半期の連結売上収益・事業利益はともに計画を上回って推移
- 税引前四半期利益と親会社所有者四半期利益は、2023年の一時コスト***の反動により、増益
- 平準化EPSは前年並みとなった

* 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出
** 明細はp.11参照
*** ミャンマー事業の連結除外に伴う為替換算調整勘定（約190億円）の実現

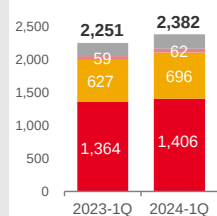
- 第1四半期決算の連結売上収益は、対前年プラス11.4%の5,018億円、連結事業利益については、ほぼ前年並みの331億円となりました。
- 税引前四半期利益は、前年の一時コストの反動等により、442億円と対前年で大きく増加しました。
- 親会社の所有者に帰属する四半期利益についても、税引前四半期利益の増加により、259億円と大きく増益となっています。
- 平準化EPSについては、連結事業利益や持分法による投資利益が前年並みであることから、前年同額の32円となりました。
- なお、第1四半期における、通期業績予想の修正はございません。
- 引き続き、年間計画である事業利益2020億円、平準化EPS177円を目指してまいります。

キリンビールのブランド投資による費用増加を、Coke Northeastの増益でカバー

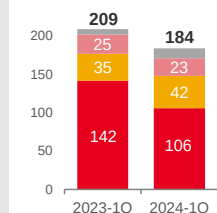


- 3ページは、セグメント別の事業利益増減となります。
- キリンビールのブランド投資のための費用が先行して出ておりますが、Coke Northeastの好調や、Blackmoresの新規連結などの増益要因により、1-3月の事業利益はほぼ前年並みとなっております。
- なお、2024年度も原材料等の高騰影響が出ておりますが、引き続き、価格改定等でカバーができております。

売上収益 (億円)



事業利益 (億円)



* キリンビールの実績は酒税込売上収益を記載
© Kirin Holdings Company, Limited

2024年 1Q実績

キリンビール

- ▶ 主カブランドでマーケティング投資の効果が発現
一番搾りブランド / 本麒麟 / 氷結ブランド で市場を上回る成長

一番搾りブランド



本麒麟



氷結ブランド



- ▶ 狭義ビール新ブランド『晴れ風』が初回出荷計画を大幅超過



4月販売動向

1. 4月は販売計画を大幅に超過
2. 一番搾りファンとは異なる層のトライアル獲得実現により、カンパリが最小限に

- ▶ ジャパニーズウィスキーの富士ブランドは欧州や国内を中心に売上高が約3倍*と好調に推移し、計画を超過



* 対前年増減比率

** 発泡酒・新ジャンル (発泡酒②) 合算のエコミカテゴリー前年比を記載

Lion

豪州

売上収益 Hahn +18%*
Stone & Wood +16%*

- ▶ 集中投資とマーケティングを推進した成長ブランド (Hahn, Stone & Woodなど) が販売を牽引

- ▶ 氷結ブランドは、複数フレーバー展開もあり販売は好調に推移

- ▶ 構造改革による組織のスリム化は計画どおりに進捗

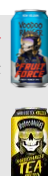


北米

売上収益 米国クラフト市場 ▲1 ~ +1%*
Lion (北米クラフト) +18%*

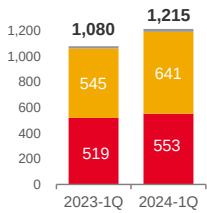
- ▶ 販売体制強化及びVoodoo Rangerブランドの伸張により市場を上回る成長を継続

- ▶ 成長するRTD市場でVoodoo Hard Charged Teaの全国販売を開始し、順調に推移

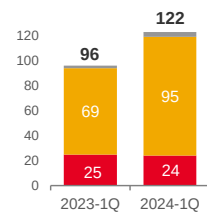


- 4ページ以降で各セグメントについてご説明します。まず、酒類事業です。
- 酒類事業計は、各社の着実な値上げ等により130億円の増収となっておりますが、事業利益については25億の減益となっております。
- キリンビールについては、かねてより取り組んでいる投資の効果が発現し、一番搾り、本麒麟、氷結という各カテゴリーの主力ブランドが市場をアウトパフォームしております。
- また、新ブランド「晴れ風」は、発売前の第1四半期からマーケティング活動を注力して行ったため、4月2日発売後の出荷は計画を大きく上回り大変好調です。ブランド定着に向け第2四半期以降もマーケティング投資を強化してまいります。
- 昨年より改めて注力を開始した洋酒についても、計画を超える売上の伸びをしております。
- Lionは、第1四半期で市場は軟調に推移をしておりますが、同じくブランド投資を注力ブランドに集中させることにより、市場を上回る販売数量を実現しており少しずつモメンタムが上向いてきています。
- またRTDでは日本のブランド「氷結」を複数フレーバーで展開し、好調を続けております。
- 一方で、北米クラフトについては、クラフトビール市場全体のトレンドの弱含みが継続していますが、Voodoo RangerやBell'sのブランドの勢いは止まっていません。
- さらに、紅茶テイストのRTDであるHard Charged TeaをVoodooブランドから全国発売し、こちらも北米事業の後押しをしております。

売上収益 (億円)



事業利益 (億円)



■ キリンビバレッジ ■ その他
■ Coke Northeast

© Kirin Holdings Company, Limited

2024年 1Q実績

キリンビバレッジ

- ▶ 主力ブランドの午後の紅茶と生茶はレギュラー商品を中心に伸長し、売上収益の増加を実現
- ▶ ヘルスサイエンス飲料は既存商品の好調に加え、「おいしい免疫ケア」シリーズやファンケルとのコラボ等の昨年の新商品が寄与

午後の紅茶・生茶



売上収益

+6%*

ヘルスサイエンス飲料



売上収益

+32%*

うち、
プラズマ乳酸菌入り飲料

+39%*

* 対前年増減比率

Coke Northeast

- ▶ 1月に価格改定を実施し、販売単価の上昇と収益性を向上
- ▶ 価格改定後も炭酸飲料の伸長によって、全体の販売数量は維持



販売単価

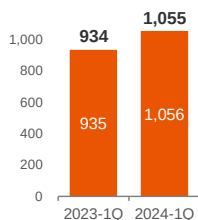
価格改定により
一桁台増

販売数量

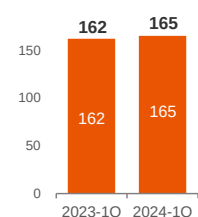
前年並み

- 5ページをご覧ください。
- 第1四半期の飲料事業計は、増収増益です。
- 事業会社別では、キリンビバレッジは、主力ブランドである午後の紅茶と生茶の売上収益は対前年で6%増となっております。
- ヘルスサイエンス飲料の売上収益も、既存商品の好調に加え、「おいしい免疫ケア」シリーズからの新商品の寄与もあり、3割増と昨年から継続して拡大しています。
- Coke Northeastは、年初の価格改定実施後も炭酸飲料が伸長することで販売数量は前年並み推移し、売上収益は増加しております。
- 継続してオペレーションの最適化・効率化により、収益性の維持・改善を図ってまいります。

売上収益 (億円)



事業利益 (億円)



協和キリン

2024年 1Q実績

協和キリン

- ▶ グローバル戦略品の成長
(対前年 日本 + 海外売上成長率・円ベース)



+28%



+38%

- ▶ Orchard社の株式取得完了



- OTL-200 (Lenmeldy™*) が
米国FDAの承認を取得
- 両社の強みを融合した付加価値創出に向けてPMIを実施中

PMI最優先課題

1. R&Dにおける付加価値
2. 顧客対応における付加価値

Orchard社説明会(4/8実施)

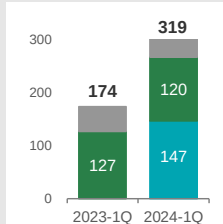
- Orchard社の株式取得の背景
- Orchard社と造血幹細胞遺伝子治療について
- 造血幹細胞遺伝子治療に関する今後の計画



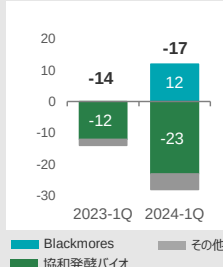
詳細はこちら

- 続いて6ページです。
- 医領域である協和キリンについては、引き続きグローバル戦略品の成長に取り組んでおり、着実な成長を継続しています。
- 1月に買収が完了したOrchard社は、先日リリースを出した通り、既に欧州で承認を得ている造血幹細胞遺伝子治療法のOTL-200、製品名Lenmeldyについて、米国FDAからも承認を取得いたしました。
- 買収後の進捗はPMIも含めて順調です。
- Orchard社については協和キリンが株式取得の背景や造血幹細胞遺伝子治療に関する今後の計画などについて説明会を実施していますので、ぜひご確認いただければと思います。

売上収益 (億円)



事業利益 (億円)



© Kirin Holdings Company, Limited

2024年 1Q実績

Blackmores

- 全体で着実にトップラインの増加を実現
売上収益(参考) **+5%***
- 主なトピック
 - 豪州・NZ: BioCeuticalsの力強い成長により、売上収益は+5%*の成長
 - SEAK**: ベトナムにおける粉ミルク事業での製造委託先切替等による売上減少があったものの、それ以外の国では増収を実現
 - 中国: 価格改定や広告販促の投下により、ブランド認知度向上と売上収益の+21%*を実現

BLACKMORES
| GROUP

* 対前年増減比率

** InternationalからSEAK (South-East Asia plus Korea)に変更

*** 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) のワクチン開発・生産体制強化戦略関連事業である先進的研究開発戦略センター

プラズマ乳酸菌

注) プラズマ乳酸菌入り飲料は「ヘルスサイエンス」セグメントに含まれないが、以下はプラズマ事業全体を示している

- 継続して規模拡大を実現
売上収益 **+33%***



- 内閣府所管の国立研究開発法人における SCARDA***事業に採択

国立感染症研究所との共同研究でプラズマ乳酸菌を医療用に活用し、COVID-19やインフルエンザ等の呼吸器ウイルス感染症に対して、感染防御効果を有するワクチンとしての可能性を探索

素材としてのプラズマ乳酸菌（乳酸菌Lラクトイスプラズマ）に関する情報を記載しています。プラズマ乳酸菌を含む製品の効果・効能を示すものではありません。

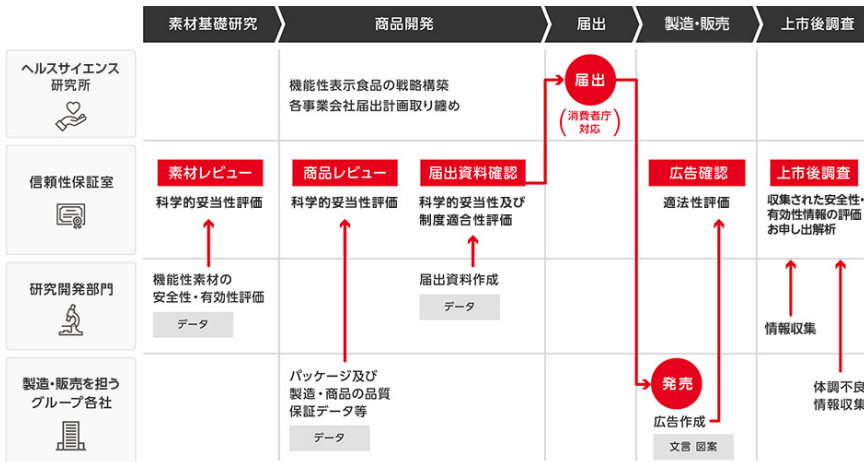


詳細はこちら

- 続いてヘルスサイエンス領域です。
- Blackmoresは、昨年下半年からの新規連結となるため、上半期中のPL影響は対前年で純増となります。ベトナムの粉ミルク事業での販売減少はあるものの、全体としては買収前である前年度の売上収益に対して5%の増加となっております。
- 一部の方々より懸念されております中国市場においても、価格改定を行っても約2割の売上成長をしております。今後も、今後もブランド認知度を高めていければ、着実な成長が望めると考えております。
- 国内を中心としたプラズマ乳酸菌についても、昨年から継続して30%以上の売上収益増を実現しております。
- プラズマ乳酸菌については、そのエビデンスの高さから、以前より医療用に使えないかの研究は実施していますが、今回、内閣府所管の機関における事業にも採択されています。

- ▶ グループ全体の業績への影響は現時点では大きくはないと見込むが、サプリメント市場の今後の動向は注視が必要
- ▶ 今までも強固な品質保証の体制を構築してきたが、今後も継続的に取り組みを見直し改善していく

機能性表示食品における素材基礎研究から上市後までの流れ



- ▶ 当社グループで「小林製薬社製の紅麹」を使用している製品はなし。

機能性表示食品における取り組み

- ▶ “科学的根拠に基づいた表示”を行えるように、機能性表示食品制度が発足する前の2014年に、基礎研究、商品開発、消費者庁への届出、マーケティング・製造・販売を行う各部門から**独立した組織**として、「**信頼性保証室**」を設立
- ▶ 素材研究から商品の上市、そして上市後の調査までの各プロセスにおいて、「**信頼性保証室**」が、社内の組織でありながら第三者としての立場でデータや表示の妥当性を厳しくチェック

- サプリメント市場を揺るがしている紅麹の問題ですが、当社グループで小林製薬社製の紅麹を原料としたものはございません。
- また、現時点ではグループ全体の業績に与える影響はそこまで大きくないと見込んでおりますが、本件によるサプリメント業界全体への影響は引き続き注視していきます。
- キリングroupは機能性表示食品の制度が始まる前より、キリングroup製品の品質を独立的な部門としてチェックする「信頼性保証室」という組織を作り、基礎研究から上市に至るまで第三者として妥当性を厳しくチェックする体制をとっております。
- 今回のような品質問題に起因する影響を出来るだけ極小化させるためにも
- 今後もグループにおける品質保証のレベルを維持・向上させる改善を継続させていくことが重要と考えています。

Social

サステナビリティの取り組みが評価され「SX銘柄(サステナビリティ・トランスフォーメーション)2024」に選定

- ▶ フォアキャスト&バックキャストの観点を兼ね備えた価値創造ストーリーを構築し、気候変動や人的資本、ガバナンス体制をはじめ、あらゆる面でサステナビリティへの取り組みを模範的に進めている点を東京証券取引所と経済産業省に評価された



詳細はこちら

電気を使った塩味増強技術およびその技術を使った「エレキソルト」が日本学術会議会長賞を受賞

- ▶ 明治大学の宮下芳明研究室と共に、電気の力を利用して減塩食の塩味を約1.5倍に増強する「電気味覚」の技術開発に成功。
- ▶ 「エレキソルト」デバイスの開発と実証実験を進めており、減塩食品の味をより美味しくする新たな選択肢として、今後の展開を目指す

「健康経営優良法人2024（ホワイト500）」認定を8年連続で取得

- ▶ キリンホールディングス及び協和キリンの2社共に認定

Environment

キリンビバレッジにおいて「グリーン電力自動販売機」を1月以降全国で順次展開

- ▶ 稼働に必要な年間消費電力量に相当する「グリーン電力証書」を取得することで、その自動販売機は「グリーン電力」を使用したとみなされ、GHGの排出量を相殺することが可能。

「シャトー・メルシャン 梔子ヴィンヤード」にて農研機構との新たな共同研究を開始

- ▶ ブドウ畑の生物多様性評価の一層の高度化と、気候変動の緩和策である炭素貯留効果の評価に取り組む

Index評価 外部評価

CDP：最高位のサプライヤー
エンゲージメントリーダーの
評価を6年連続獲得



CDP：
水セキュリティ
最高位 8年連続Aリスト



「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」
において環境サステナブル企業部門で
3回目の「金賞」を受賞

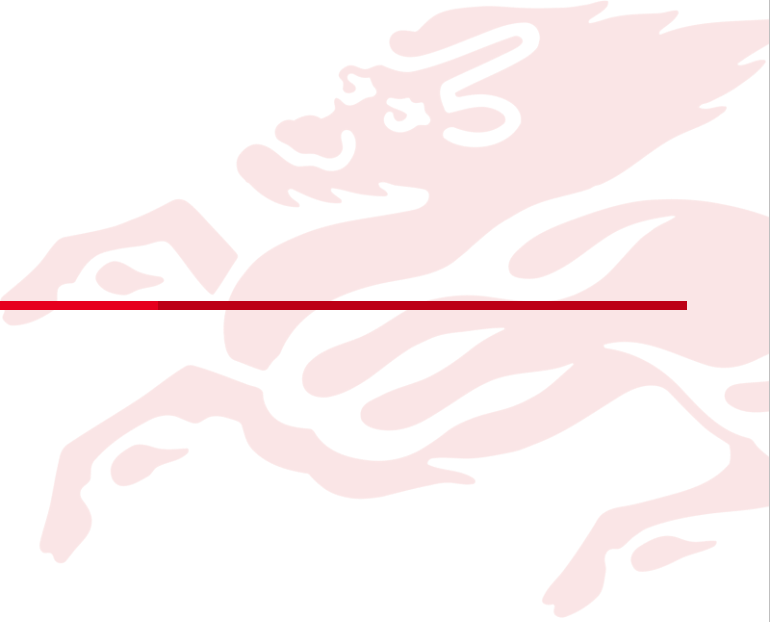


- 9ページをご覧ください。ESGのアップデートです。
- 今回、経済産業省・東京証券取引所が、上場企業の中から選定した「SX銘柄」として、他14社と共にキリンホールディングスが選定されました。
- SXというのはサステナビリティ・トランスフォーメーションの略ですが、これは投資家の皆様などとの建設的な対話を通じて、社会のサステナビリティ課題やニーズを自社の成長に取り込み、必要な変革を行うことで長期的かつ持続的な企業価値創造を進めている先進的企業を選定・表彰するものです。
- 今回は、ESGの観点で他企業の「模範」となる取り組みを実施している点などを評価頂きました。
- 引き続き、投資家の皆様などとの建設的な対話を通じて変革に取り組み、経済的価値・社会的価値を両立させていきます。
- 以上、第1四半期決算の進捗について、ご説明いたしました。



資料編

Joy brings us together



(億円)		24年1Q実績	23年1Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益	①	259	56
税金等調整後その他営業収益／費用等	②	4	202
平準化 四半期利益	③ = ① + ②	263	258
期中平均株式数（千株）	④	809,872	809,827
平準化EPS（円）	③ ÷ ④	32円	32円

2024年度 1Q実績：セグメント別 売上収益



(億円)		24年1Q実績	23年1Q実績	増減	%
連結 売上収益		5,018	4,503	514	11.4%
酒類		2,382	2,251	130	5.8%
	キリンビール	1,406	1,364	42	3.1%
	Lion	696	627	69	11.0%
	うち豪州・NZ	480	453	27	6.0%
	うち北米クラフト他	216	174	42	24.2%
	Four Roses	62	59	3	4.3%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	218	201	17	8.3%
飲料		1,215	1,080	135	12.5%
	キリンビバレッジ	553	519	35	6.7%
	Coke Northeast	641	545	96	17.5%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	21	16	5	29.7%
医薬		1,055	934	121	12.9%
	協和キリン	1,056	935	120	12.9%
	セグメント間取引消去	-1	-1	0	—
ヘルスサイエンス		319	174	146	83.8%
	Blackmores	147	—	147	—
	協和発酵バイオ	120	127	-7	-5.6%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	52	47	5	11.4%
その他		46	64	-17	-27.1%

2024年度 1Q実績：セグメント別 事業利益



(億円)		24年1Q実績	23年1Q実績	増減	%
連結 事業利益		331	336	-5	-1.5%
酒類	麒麟ビール	184	209	-25	-11.9%
	Lion	106	142	-36	-25.3%
	うち豪州・NZ	42	35	7	19.7%
	うち北米クラフト他	28	20	8	41.4%
	Four Roses	14	15	-1	-8.7%
	その他	23	25	-2	-8.5%
飲料	その他	13	7	6	90.8%
	麒麟ビバレッジ	122	96	26	27.1%
	Coke Northeast	24	25	-1	-4.5%
	その他	95	69	25	36.8%
医薬	その他	4	2	2	86.3%
	協和麒麟	165	162	3	2.0%
ヘルスサイエンス	その他	165	162	3	2.0%
	Blackmores	-17	-14	-2	—
	協和発酵バイオ	12	—	12	—
	その他	-23	-12	-12	—
その他		-5	-2	-3	—
全社費用・セグメント間取引消去		-2	-3	1	—
		-123	-115	-8	—

2024年度 1Q実績：麒麟ビール



(億円)	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	1,406	1,364	42	3.1%
酒税抜売上収益	854	826	28	3.4%
事業利益	106	142	-36	-25.3%

23年1Q 事業利益 (億円)		142	主な内容
対前年増減	酒類等 限界利益増	30	ビール類計 1億 (ビール類減 -8千kl) ビール類以外計 9億 (RTD増 6千kl、ノンアル減 -0千kl) 他 品種構成差異等 20億
	原材料費増	-22	市況の高騰等
	販売費増	-50	広告費増 -30億 販売促進費増 -20億 (計99億→149億)
	その他費用減	6	経費減 他
	計	-36	
24年1Q 事業利益		106	

(千KL)	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減 %	市場 (カテゴリー)
ビール類計*	—	—	-2.4%	-2%
RTD	97	92	6.1%	4%
ノンアルコール飲料	7	8	-3.9%	—

* ビール酒造組合での合意により、ビール類の販売数量実績は、2Q及び4Qのみ開示

一番搾りブランド計	77	69	10.3%	9%
スプリングバレーブランド計	4	5	-14.4%	9%
淡麗グリーンラベル	30	33	-6.7%	-11%**
本麒麟	40	40	1.7%	-11%**
氷結ブランド計	65	60	8.8%	4%

* 2023年度からビールカテゴリーの開示はビール類のみとし、主力ブランドとチャネル別の明細を記載

** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②） 合算のエコノミーカテゴリー 前年比を記載

販売数量前年比	増減 %	市場
ビール類 業務用***	0%	4%
ビール類 家庭用***	-3%	-3%

*** 業務用：壺・樽・PET商品計、家庭用：缶計

円ベース (億円)

	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	696	627	69	11.0%
うち豪州・NZ	480	453	27	6.0%
うち北米クラフト他	216	174	42	24.2%
事業利益	42	35	7	19.7%
うち豪州・NZ	28	20	8	41.4%
うち北米クラフト他	14	15	-1	-8.7%

豪ドルベース (million AUD)

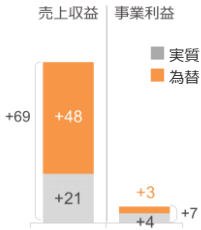
	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	711	688	23	3.4%
うち豪州・NZ	490	497	-7	-1.3%
うち北米クラフト他	221	191	30	15.7%
事業利益	43	39	4	11.5%
うち豪州・NZ	29	22	7	31.7%
うち北米クラフト他	14	17	-3	-15.0%

豪州・NZ事業利益増減 (million AUD)

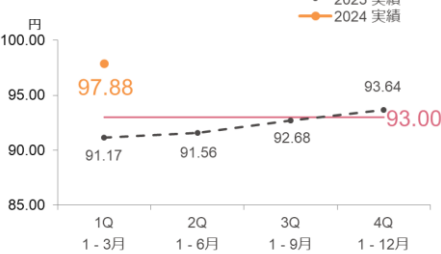
23年1Q 事業利益	22
豪州・NZ 数量	-5
豪州・NZ その他*	12
24年1Q 事業利益	29

* 本社コストは、豪州・NZを含む
・ 対前年販売数量増減率は豪州・NZ・北米クラフト他の合計で+2%、豪州のみでは-1%。

連結為替影響
2024年実績 (億円)



AUD (オーストラリア・ドル)



(億円)	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	553	519	35	6.7%
事業利益	24	25	-1	-4.5%

23年1Q 事業利益 (億円)		25	主な内容
対前年増減	清涼飲料限界利益減	-0	販売数量増 400万ケース 19億 商品・容器構成差異等 -19億
	原材料費等増	-1	原料費増 -6億、材料費増 -1億、 加工費減 6億
	販売費減	4	販売促進費減 2億、広告費減 2億 (計40億 → 36億)
	その他費用増	-4	
	計	-1	
24年1Q 事業利益		24	

販売数量 (万ケース)		24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減
清涼飲料計		4,188	3,788	10.5%
ヘルスサイエンス飲料		555	457	21.4%
うちプラズマ乳酸菌入り飲料		245	171	43.2%
缶		457	509	-10.1%
容器別	大型PET	1,161	903	28.5%
	小型PET	2,194	2,000	9.7%
	その他	376	376	-0.1%

販売数量 (万ケース)		24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減
ブランド別	午後の紅茶	1,196	1,112	7.6%
	生茶	551	489	12.5%

Coke Northeast

	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	641	545	96	17.5%
事業利益	95	69	25	36.8%

USDルベース (million \$)

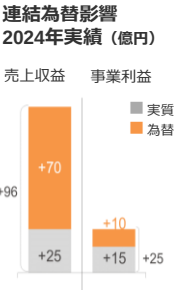
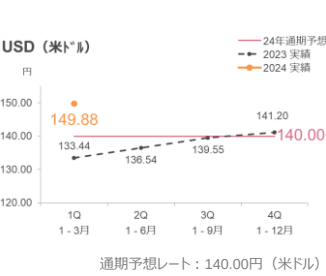
	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	428	409	19	4.6%
事業利益	63	52	11	21.8%

協和キリン

(億円)	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	1,056	935	120	12.9%
事業利益	165	162	3	2.0%

協和キリンの決算発表表はこちら

<https://ir.kyowakirin.com/ja/library/earnings.html>



グローバル戦略品売上収益 (億円)

	Crysvita クリスピータ		Poteligeo ポテリジオ	
(億円)	24年1Q	23年1Q	24年1Q	23年1Q
日本	25	23	4	4
北米	228	188	63	43
EMEA	119	80	19	15
APAC	6	3	—	—
合計	378	294	86	63

2024年度 1Q実績 : Blackmores



円ベース (億円)

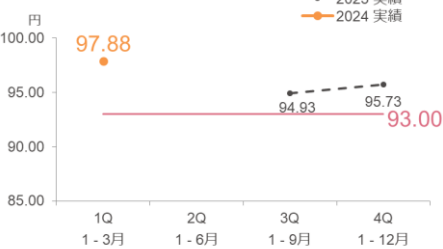
	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益*	147	-	147	-
豪州・NZ	66	-	66	-
SEAK**	36	-	36	-
中国	44	-	44	-
事業利益	12	-	12	-

・ Blackmores連結取り込み開始は23年3Qのため、1Q・2Qの前年実績記載はない
・ PPA (Purchase Price Allocation) は上半期中に確定の予定のため、無形資産の償却費は暫定値を使用

豪ドルベース (million AUD)

	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益*	151	-	151	-
豪州・NZ	68	-	68	-
SEAK**	36	-	36	-
中国	45	-	45	-
事業利益	12	-	12	-

AUD (オーストラリア・ドル)



[参考]

豪ドルベース (million AUD)

	24年1Q 実績	23年1Q 実績	%
売上収益*	151	143	5.4%
豪州・NZ	68	64	5.0%
SEAK**	36	41	-10.5%
中国	45	37	20.9%



(億円)	24年1Q 実績	23年4Q 実績	増減
資産合計	30,047	28,696	1,351
資本合計	14,575	14,258	316
負債合計	15,472	14,437	1,035
ROIC*	—	8.0	—
グロスDEレシオ	0.65	0.58	—
ネットDebt／平準化EBITDA**	—	1.79	—
PBR(株価純資産倍率) ***	1.5	1.5	—
ROIC・ネットDebt／平準化EBITDAは4Qのみ開示			

(億円)	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減
営業活動CF	399	419	-20
投資活動CF	-653	-314	-339
フリーCF	-255	104	-359
財務活動CF	347	-86	434

* 利払前税引後利益／(有利子負債の期首期末平均＋資本合計の期首期末平均) にて算出
** 平準化EBITDA＝事業利益＋減価償却費及び償却費(注)＋持分法適用会社からの受取配当金 にて算出
(注) 減価償却費及び償却費は使用権資産の償却費を除いております。
*** 期末株価終値／(親会社の所有者に帰属する持分／期末発行済株式数 (自己株式除く)) にて算出

三
補足

財政状態計算書

➤ **資産合計**：Orchard社の買収に伴うのれん、無形資産の増加等により前年度末に比べ1,351億円増加して3兆47億円となりました。

➤ **資本合計**：為替変動の影響等によるその他の資本の構成要素の増加等により、前年度末に比べ316億円増加して1兆4,575億円となりました。

➤ **負債合計**：新規借入等による社債及び借入金の増加等により、前年度末に比べ1,035億円増加して1兆5,472億円となりました。

➤ **グロスDEレシオ**：親会社の所有者に帰属する持分が3%増加した一方で、有利子負債が15%増加したことから、前年度末から増加しました。

➤ **PBR**：期末株価終値が2%上昇した一方で、親会社の所有者に帰属する持分が3%増加したことから、前年度末並みとなりました。

キャッシュ・フロー計算書

➤ **営業活動CF**：運転資金の流入は15億円増加、法人所得税の支払額は31億円増加しました。

➤ **投資活動CF**：有形固定資産及び無形資産の売却により33億円、投資の売却により7億円の収入がありました。一方、子会社株式の取得により451億円、また有形固定資産及び無形資産の取得については、前年同期に比べ69億円減少の220億円を支出しました。

➤ **財務活動CF**：配当金の支払により368億円、長期借入金の返済により217億円の支出がありました。一方、長期借入金の増加により1,020億円、コマーシャル・ペーパーにより190億円の収入がありました。

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.

